

各学校においては、日々の授業や校務においてICTを活用した教育DXが進められていることと思います。本号では、授業の質の向上や校務の効率化に向け、学校DX戦略アドバイザーの講演概要やデータの保安全管理、生成AIの利活用等について紹介します。

児童生徒の主体的な学びの実現に向けて

国のリーディングDXスクール事業指定校では、ICTを活用した授業改善に係る研修や公開授業、学校DX戦略アドバイザーによる講演等を計画的に実施しています。

本号では、11月5日（月）に当課職員が参加した旭川市立緑が丘中学校の授業公開・校内研修における学校DX戦略アドバイザー 山本 朋弘 氏（中村学園大学教育学部 教授）の講演の概要について紹介します。



山本 朋弘 氏

- **主体的な学びをつくり出すためには、学習規律が遵守される等、学びの土台が大切**
⇒ つまずいたとき、頼れる人や場所がある
- **受動的な学習では、暗記はできても、活用できる知識になりづらい。**
⇒ デジタルでも紙でも、教師主導では不活性な知識になりやすい
- **個別最適な学びのポイントは、児童生徒が自分で選んで、自分で決めて、自己調整しながら学習を進めていけるようにすること**
⇒ 児童生徒が学習の見通しをもち、学びを振り返ることが大切
- **協働的な学びのポイントは座学からの脱却、クラウドを活用した他者参照、協働編集・制作等**
⇒ 個別化での孤立化や孤独化を防ぐことが大切
- **授業では、教師主導の授業（一斉授業）と子どもに委ねる授業の両方が存在**
⇒ 年間・単元の計画を見通し、どこで子どもに委ねる場面を設定するかが大切



【講演の様子】

データの保安全管理について

道教委では、学校での校内ファイルサーバの管理・運用に係る負担軽減等を目的として、道立学校スクールドライブ（通称：Sドライブ）を導入しており、各学校においては、現在使用している校内ファイルサーバ保守期間の終了を見据え、データの移行作業が進められています。

データの保存・管理については、今年度実施している「ICT支援員訪問」において、「機微情報はSドライブに、機微情報以外はGWS等のクラウドサービスに保管」するようお願いしておりますので、各学校においては、個人情報と機微情報を混同されないよう、関係通知※1を確認いただくとともに、校内でデータの管理方法を検討し、適切に運用するようお願いいたします。

重要性分類

重要性分類Ⅰ	個人アカウント情報、人事情報など、個人の生命・財産に関わるような 機密情報 を指す。業務に係る特定の教職員のみがアクセスできる情報である。
重要性分類Ⅱ	児童生徒のプライバシー性の高い 機微情報 （成績、健康関連、家族構成、生徒指導履歴等）や学校運営に係る校務系情報のなかで機密性の高い情報が相当する。業務に係る教職員のみがアクセスできる情報である。
重要性分類Ⅲ	児童生徒が学習活動で生成する学習系情報や、職員会議資料のような教職員全員が共有できる校務系情報を指す。児童生徒の家庭学習や教職員が共有可能な校務系情報であるため、学校内外からのアクセスを許容する。
重要性分類Ⅳ	上記以外の情報であり、万が一セキュリティ侵害が発生しても、ほとんど影響を無視できる情報である。

（注1）児童生徒の氏名、性別、学年等の属性情報を、生活歴、心身の状況、電話番号等といった情報と束ねたリスト等については、上記のとおり重要性分類Ⅱとして扱う一方で、児童生徒が学習活動を通して生み出す学習系情報の中にも、氏名、性別、学年といった属性情報を置くことは自然なことであり、様々な学習系ツールの利用場面も含めて、これらの属性情報について学習系ネットワーク及びクラウドサービスにおいて扱うことを一義的に禁止しないので、活用場面等に応じて、実態に即した形で運用すること。

分類Ⅰ・Ⅱ → 道立学校スクールドライブまたは校務支援システム
分類Ⅲ・Ⅳ → GWSへ

※1 令和5年3月30日付け教ICT第571号「北海道教育情報通信ネットワークに係る情報セキュリティ対策の実施及び運用に関する手順について」

校務で生成AIを利用していますか？

道立学校職員は、オンデマンド研修を受講し、利用チェックシートを提出することで（関係通知※2を参照）、校務で生成AIサービスを利用することが可能となりました。一部の先生からは「利用したことがあり業務スピードが上がった」「便利だ」などの声を聞くことがある一方で「利用したことがない」「校務のどのような業務で利用できるのか分からない」などの声が多く聞かれます。

リーディングDXスクール事業生成AIパイロット校では、国のガイドラインで示された活用例を踏まえつつ、個人情報や機密情報の保護に細心の注意を払いながら働き方改革の一環として、生成AIの活用方法に関する教育実践が進められており、当該事業ウェブページに実践事例（計画立案のアイデア出しやアンケート等の集約・解析、会議資料や会議録の作成等）が掲載されていますので、業務の改善・効率化に向け、ぜひ試してみてください。

※2 令和6年8月5日付け教ICT第238号通知「生成AIサービスの利用等について」及び、令和6年10月16日付け教ICT第361号通知「生成AIサービスの指定の追加について」



企業では、生成AIを利用したことにより大幅に業務が効率化がされたり、IT知識に課題を抱える社員がAIと対話しながらシステムを開発したりするなど、業務改善に大きな役割を果たしています。学校でも社会の流れに合わせて、積極的に活用していきましょう！

「管理職向け研修」終了！

11月13日（水）に実施したGoogle Workspace for Education（GWS）管理職向け研修で、全5回の研修が全て終了し、高等学校の管理職約150名、特別支援学校の管理職約60名に参加いただきました。

研修ではChatやスプレッドシートを実際に操作し、ICT活用を体験していただきながら、新しいものを受け入れて、常に自らの考えを更新するために、組織として必要な土台である心理的安全性などについて理解を深めていただきました。

【心理的安全性を高めるために管理職ができること】

- ・積極的な姿勢を示す
- ・理解していることを示す
- ・対人関係において相手を受け入れる姿勢を示す
- ・意思決定において相手を受け入れる姿勢を示す
- ・強情にならない範囲で自信や信念をもつ

これまで“最善”だった方法は、今も、今後も“最善”なのか？
私たち大人が常に問い続けることが大切です！



【研修の様子】

ICT活用ポータルサイト



[チャットボット案内が利用できます！](#)

ICT活用に向けた校内研修プラン



[ICTに関する校内研修を企画・実施する際はこちらへ！](#)

「みんなで研修」プログラム



[短時間でICT活用を学べます！](#)

校務DX化の促進に係る関連情報ページ



[ICTを活用した校務の効率化についてはこちら！](#)

